

第5学年 体育科 授業構想シート

授業者 則藤 一起

本実践の主張点	どうすれば全員がゴールを決められるのかを問い続けることで、一人一人が、フリーでシュートをするための動きを考え続けるだろう。
---------	---

1. 単元名 5Cバスケ

～NBA(Norifuji Basketball Association)でAll shoot～

2. 5年C組の子ども

本学級の子どもたちは、体を動かすことが非常に好きである。休憩中、男子はサッカーや野球、女子は8の字跳びをして過ごすことが多い。体育では、体づくり運動、マット運動、8秒間走、50mリレー、ハンドボール、水泳に取り組んできた。どの運動にも、友だちとかかわりながら、技や記録、相手チームに挑戦したり、上手く回ることや速く走ること、相手をかかわす動きなどを考えたりして楽しんだ。ハンドボールでは、ボール操作が不慣れな子どももいたが、スポンジドッジボールを使用することで怖がらずにパスを受けたりキーパーをしたりすることができた。単元を進めるうちに、前へ動こうという意識も付き、よく動いた。

3. 何ができるようになるか

探究力	省察性
<ul style="list-style-type: none"> ・ All shoot をめざして、全員がシュートをするにはどんな作戦がいいか、どこを狙えば決まりやすいかなどを考え、試す力 (課題解決力) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうすればシュートをすることができるのかを振り返り、自己やチームの変化に気付き、表現する力(課題解決力を支える省察性)

4. 何を学ぶのか

① 単元の目標

5Cバスケに友達と協力して積極的に取り組み、速攻や様々なかわし方で相手をかまし、フリーになってシュートをすることができる。

② 教材の価値

本単元は、オールコートでプレーヤーは3人で行う。1グループは3～4人で、2グループをバディチームとする。コート外からの声かけをすることにより、苦手な児童が動きやすい環境をつくる。そしてドリブルは初めから“あり”で行う。5Cハンドボール時に、全体的によく動き、パスが回っていたからである。ドリブルを認めることにより1人で攻めていく姿もあるだろうが、単元後半で入れることを考えると、初めから入れてドリブルの難しさに触れ、チームでの課題に生かしていく。また、ハンドボールで学習したことと比べ、ボールを運ぶ時にはドリブルが良いのかパスが良いのかを考える手立てとしたい。この時に守備から攻撃への切り替えについて考えさせ、いかに早く切り替えができるかにも焦点を当てていく。このことがフリーになることにつながり、ボールを持たない時の動きをさらに考えることにつながっていくと考える。

③ 学年間・教科間のつながり

1学期に行った5Cハンドボールの実態から、よく動き前に動こうという意識がある。さらに動きが広がるようにドリブルを入れていく。また場合によっては、単元途中でハンドボールを取り入れることで、ドリブルを使った動きや思考の広がりにはかしていく。他教科とは、道徳「すれちがい」で友達のことを考えたり、CHANGE「大道芸をしよう」で得意なことを伸ばしたりして、より友達のことを認めていくことにつなげていきたい。

5. どのように学ぶのか

①働かせたい思考スキル

■くらべる □つなげる □まとめる □広げる □予想する ■見方を変える

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

単元計画（全8時間） 本時5/8 ○オリエンテーションと試しのゲーム（3時間+α） ・試しのゲームをして、ルールやゲームに慣れる。 ・どうすれば全員がシュートができるかを考える（パスやドリブルでの攻め方の工夫）。 ・場合によっては、ハンドボールを取り入れる。 ○トライゲーム（3時間） ・チーム内の個人の特徴を考えてゲームに取り組む（どのような作戦が合っているかを考える）。 ○NBA5Cバスケトーナメント（2時間） ・速攻やアシストパスなど今まで取り組んで身に付けてきたことを活かして、トーナメント戦に取り組む。		単元における授業づくりのしかけ
	探究力を育む	・シュートをするための作戦を選ぶように、方法を提示する。その際、どういうシュートが入りやすいかという視点をもたせる。 ・個人の特徴が分かりやすいチームカードの作成・活用をする。 ・作戦をバディチームと共有させ、声かけに生かす。
	省察性を育む	・どこからシュートをしているかを分かりやすくまとめられるチームカードの作成をする。 ・どうしてそのように考えたのか根拠を積極的に問うことで、チームで共有させやすくする。

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・パスやドリブルによりボールを運び、シュートをすることができる。また、チームでどのように動けばシュートをしやすいかを理解することができる。	・ボールを持った時や持たない時の動き方を考えたり、自己やチームの特徴や課題に応じて作戦を選んだりするとともに、それらを友だちに伝えることができる。	・5Cバスケに積極的に取り組み、楽しもうとする。 ・ルールやマナーを守り協力して運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。